

「ネット社会」どう生き抜く？



岡山市・京山中3年 森元 和呼

なぜ、このような事件が後を絶たないのだろうか。神奈川県座間市のアパートで9人の男女が殺害された記事を読んで、私はショックだった。きっかけは多くの人がよく使う身近なインターネットだという。容疑者の書き込みで9人も吸い込まれるようにひきつけられ、殺害された。私はこの事件をもっと知りたくて、関連の記事を読んだ。その中に「治安に関する世論調査」の結果があった。自分や身近な人が犯罪に遭いそうで不安な場所として61%の人が「インターネット空間」を挙げたという。インターネットには便利さ

と引き換えに、悪用の恐れや問題点があることは分かっていたが、こんなに警戒している人がいるとは思ってもいなかった。ネットの闇に引きずり込まれないようにするにはどうすればいいだろうか。私は、ネット空間ではなく、実生活の中で人と触れ合う時間を増やすことが大切だと思う。社会の中でいろいろな人と関わり、たくさん意見に触れることで、視野が広がると思う。

私にも人と関わることで新しい発見があり、視野が広がった経験がある。先日、学校で開かれた「命を育む授業」がその一つで、今まで知らなかった事を学

つた。命を育む授業とは、近くに住む赤ちゃんとお母さんを招いて生徒と交流するものだ。赤ちゃんを抱っこしたり、赤ちゃんを温かく見守るお母さんの様子を見たりして、一つの命が大切に守られていることを実感した。実際にお母さんに質問すると、「赤ちゃんが生まれてから自分の時間がかかり減ってしまっただけで、一緒にいると楽しい。」とか「お母さんになるという新しい感覚を味わえた。」など、私には想像できなかった答えが返ってきた。年齢も立場も全く違う人の話を聞くことで、今まで知らなかった事を学

び、気付かなかったことに目が向く、視野が広がったような気がする。情報化が進んだ今、ネット情報をつのみにせず、何でも直接見る、聞くと、手にするという体験が貴重だと思う。体験することが「だるい」「面倒くさい」と思う人もいるかもしれない。でもその先に新しい発見があるはずだ。私は、身の回りに悩んでいる人や思いつめている人がいたら、積極的に声をかけたり、地域のイベントなどに誘ったりしようと思う。二度とこのような悲惨な事件が起きないように私にできることから行動に移していきたい。

「死のう」一転報酬要求

神奈川9遺体

この部屋で何が

①

「本気ですか？」「一緒に死にますか？」

千葉県に住む27歳の女性のツイッターに9月、神奈川県座間市の事件で逮捕された白石隆浩容疑者(27)のものとみられるアカウントからメッセージが届いた。この直前、女性はツイッター上で「一緒に死んでくれる人」を募集していた。複数から返事が届いたが、最も積極的だったのがこのメッセージだった。無料通信アプリのカカオトークに誘われ、すぐに電話をかけた。電話口の声は物腰の柔らかな、優しい印象。男

自殺相談の女性証言

はじめまして。
ツイート見ました。本気ですか？
2017/09/06 23:55

リクエストを許可しました
2017/09/06 23:55

ごんぼんはDMどうもです。本気ですよ。
2017/09/07 0:00

一緒に死にますか？道具も場所も揃ってて、実行するだけです。
2017/09/07 0:05

場所はどこですか？
2017/09/07 0:17

メッセージを作成

重ねた。「会いたい」とも言われたが、予定が合わず、来月に延期されていた。10月に入り、女性は男の愛節に気付く。「お金をくれたら殺してあげると伝えられたらいい」と伝えた。日、ひびを「金ぞり」したと

報酬として女性の「全財産」を要求された。「最初の約束と違っ」。女性は不信感を募らせていく。最後のやりとりは先月29日、「首吊り土のアカアカウント」の男が使っていた「とも知った」。

31日に送ったメッセージには、今も相手を読んだことを示す「既読の印が付かない。」「一緒に死のう」と言ってくれたのに、実は金銭や乱暴目的だったなんて許せない。女性は、ニュースで知った容疑者の供述に落胆する一方、2カ月もわたったやりとりをこう振り返った。「彼とカカオしているのが楽しかった。今は楽しいことがない」

2017年11月3日付 山陽新聞

寸評

事件報道などを通じ、「インターネット空間」の問題点をあらためて指摘しています。学校で赤ちゃんや

母親と交流した体験をつづり、実生活で人と触れ合うことの大切さを呼び掛けています。